

# 健康と光線

発行所

〒153  
東京都目黒区目黒  
4-6-18

サナモア光線協会

年4回発行  
会費 年500円  
電話 東京(03)  
793-5281  
712-5322

## はじめに

元氣な子供達にとって、ちょっとした擦り傷や切り傷は日常茶飯事です。かく言う私も子供の頃は始終怪我ばかりしてましたし、癰疽にも何回か罹りました。当時は大戦中であり、未だ抗生剤もない時代でしたが、その度にサナモアを掛けました。癰疽が疼いて寝付けないうちにサナモアを掛ければ痛みが楽になって眠れるし、すぐに治ると子供心に信じていました。その時に体験した効果は今でも鮮烈に残っています。このように日常経験することが多い創傷や外科的感染症に対するサナモア光線療法の使用法について記述します。

## さず(創傷)

皮膚や粘膜の離断で、鋭利な刃物による切創、鈍器による擦過傷や挫創、強い牽引力が働いた際に生じる裂傷などに大別します。手術創は皮膚の弾力繊維の走向に添った切創です。なお皮膚の創傷面が開いている場合には、縫合して創傷面を互いによく接触させる必要があります。随伴症状として出血、疼痛、

腫脹があります。

治療はAカーボンで、傷口に三十分、症状により日に二〜三回照射しますと、直ちに止血を促し、痛みを緩和します。また患部の殺菌消毒をすると同時に感染に対する抵抗力を強めますので、創傷感染を予防する上で甚大な効果があります。また創傷の治療機転を促し後に残る癰痕を軽減してくれます。美容上好結果を得ることが出来ます。(嘗て戦陣外科的に太陽光線を創傷治療に応用し、非常に効果があったことが報告されています。)

## 外科的感染症

サナモアは外科的感染症に対し顕著な効果を示します。この際の治療の通則は、患部はA又はBカーボンで二〜六十分、一日二〜三回照射し、その他にA又はABカーボンで、腹五分、腰五分、膝十分、足裏十分、一日一回全身の基本照射をします。(通常用いられる抗生剤治療に

併用して構いません。)

## 一、創傷感染

創傷はしばしば病原菌の侵入門になり、菌の数、毒性、受傷者の抵抗力によっては創傷感染を起こして化膿し、創傷部に疼痛、発赤、熱感、腫脹を起こし、時に熱発することもあります。サナモアは新鮮創はもとより、陳旧性の肉芽創で治癒機転に乏

## 日常経験する外科的疾患に

## 対するサナモア光線療法(その一)

サナモア光線協会  
サナモア中央診療所  
医学博士 宇都宮 光明

宇都宮 光明

光明

しいような場合にも治癒力を増し、肉芽を清潔にして良好な発育を遂げさせ表皮の形成を旺盛にします。

## 二、できもの・おでき

## (局所的化膿性炎)

化膿菌が毛嚢または皮脂腺に入って起こす局所的化膿性炎です。最初は痛みのあるしこりで中心に小膿疱を生じ、しこりは次第に大きくなり、やがて化膿

して排膿します。

サナモアで初期であればそのまま吸収しますが、進行したものは自潰排膿して治癒します。なお一つの毛嚢の化膿性炎症を癰(せつ)と言ひ、特に顔に出来ると髄膜炎を起こし易く危険なため面疔(めんちょう)と別の呼称で呼びます。また数個ないし十数個の広い範囲の毛嚢の炎症は癰(よう)と言ひます。

## 三、蜂窩織炎フレグモネ

主として創傷から化膿菌が皮下組織(疎性結合組織)に入り、急速に広範囲に広がる急性化膿性炎症です。進行拡大する痛み、発赤、熱感、腫脹を認め、強い圧痛があり、しばしば悪寒戦慄を伴って高熱を発します。

サナモアは疼痛を和らげ、病勢を停止させて病果が拡大するのを防ぎます。

早期であれば膿瘍にならずに治ることもありますが、通常は膿瘍を形成し排膿

## 四、癰疽(ひょうそ)

手指、足趾の急性化膿性炎症の総称です。この部位の炎症は解剖学的に周囲には広がり易く、骨髄炎を併発し易いなど特異な臨床像を示すことから特に名付けられた病名です。典型的には指の末節の皮下蜂窩織炎で、局所に激痛を訴え、発赤、熱感、腫脹、圧

痛を呈します。病勢が悪化すれば、腕、骨、関節に炎症が波及し、悪寒、発熱を認めるようになります。

照射していると痛みが止まります。自然に吸収するか排膿して治ります。

## 五、肛門周囲炎(肛門周囲膿瘍)

肛門周囲組織の炎症の総称名ですが、化膿菌による急性のもの、大半を占めています。以前に重要視された結核菌によるものは問題にされなくなりました。症状は肛門周囲に激しい自発痛や圧痛があり、多くは発熱を伴います。炎症が浅い場合には患部に発赤、腫脹を認めますが、深部に起こると表面上は何の所見もないこともあります。なおしばしば膿が溜って肛門周囲膿瘍に移行します。

膿瘍になつていなければそのまま吸収することもあります。膿瘍になると数日から十日前後で自潰排膿し、痛みなど自覚的な症状は消失します。しかし後に瘻孔(痔瘻)を生じ易いので、一〜二カ月の事後照射が要ります。

## おわりに

サナモア光線療法には、①止血作用、②殺菌作用、③鎮痛作用、④消炎作用、⑤局所充血を促す作用、⑥表皮の再生を促す作用、⑦肉芽の形成を促す作用、⑧病果を局限し蔓延を防ぐ作用、⑨自潰排膿を促す作用などがありますので、積極的に応用してください。またケロイドを防ぎますし、どんな跡も目立たないように奇麗に治します。





「潮干狩り」

宇都宮義真撮影



## 顕微鏡を発明した

乾物屋

一昨年の夏（昭和11年）、世界各国より日食観測のため北海道に集まった学者の中に混じって見物に出かけた長野県の五味一明君（26）という床屋さんが、トカゲ座に新星を発見して世界中の専門家をアッと言わせたことは、当時の新聞に報道されましたから既に皆さんも御承知の事と存じます。

このように世上には素人の発見、発明が案外多いのです。例えば、現代医学に計り知れない貢献をした顕微鏡を発明したのはオランダのリューヘンホックですが、職業は乾物屋です。次に若干の実例を挙げてみましょう。

- ブリースニッツの温電法  
農業（オーストリア）
- ブリースニッツ  
メンデルの遺伝の法則

牧師（オーストリア）

メンデル

○ 病原性微生物の確認、狂犬

病予防注射の発見

化学者（フランス）

パストゥール

○ 飛行機の発明

自転車屋（アメリカ）

ライト兄弟

○ モールス信号

肖像画家（アメリカ）

モールス

○ 紡績機の発明

理髪師（イギリス）

アークライト

○ 酸素、窒素等の発見

伝道師（イギリス）

プリストリ

○ 天王星の発見

音楽家（ドイツ）

ハーセル

○ 微分法の発見

法律家（ドイツ）

ライプニッツ

等、枚挙にいとまがありません。

## 新しい治療法

病気の治療に関しても、新しい

治療法が度々素人によって創

案され、専門家がサジを投げ

たような患者が、専門家からは

根拠に乏しいとされる療法で全

快したと言う話を時々耳にし

## 素人大家出でよ

宇都宮 義真

## サナモア光線療法

サナモア光線療法は学理面で未解明な点が多々あるとしても、一〇〇％科学的根拠のある治療法です。而もその特徴はどんな素人でも使えると言うことであって、今までにも随分面白い意外な治験例が多数報告されています。その上、むしろ今後に於いて数万のサナモア愛用者の中から、近代医学の常識を越えた新治験例がもたらされるのではないかと、大なる期待を持って見ている次第です。

理屈はどうあれ、要するに病気は治りさえすればよいのです。サナモアが社会人類の福祉の増進、向上のために役立つことを切望してやみません。

「光と熱」

昭和13年2月1日発行

—素人大家出でよ—

より要約した



## 危篤の知らせ

私が幼年の頃から青春時代にかけて、ある事情のために一方ならぬご恩を受けた母方の親戚のおばが、医師から「会わせたい人がいたら早急に会わせるようにしてください」と危篤を告げられたという知らせが舞い込

## 老衰に脱水症状を伴った一治験例

### —— 恩人の恩に報いる ——

前田 光線治療所

前田 ミサ

来ました。

## 老衰と診断

駆け付けて見ると、おばは目を閉じて顔を開かないし、大声で呼び掛けると蚊の鳴く声より小さい消え入りそうな声でやっとな返事をしてくれず。また尿は何時出てもよいように袋を付けておしめをしていましたが、床ずれが痛々しくて苦しそうです。往診してくれる医師の見立ても、老衰が関係していることは確かとして、それ以上は分からないようでした。

おばの病状について家族や見舞客の話では、お医者さんのいう通りに治療はして貰っているが、食欲が全くなく食事を摂ろうとしないうばかりか、少しでも楽になるように体に触ろうとすると、骨や関節が痛むのか、痛そうに苦しそうな顔をして触ってくれないという態度を見せるため、傍で病人を見ているだけで看護の仕様もなく、どうにも困り果てているとのことでした。ただこの何日間か、おばがかすかに「リンゴ」といったことが分かってから、一日にリンゴ5、6個分のリンゴ汁を欲しがらる度に与えており、それだけは飲んでくれるようになってました。

## 直感的に脱水を疑う

おばは寝巻きを2、3枚着た上に布団を掛け、その上に電気

毛布を掛けていました。これではいくら寒がりでも着過ぎです。聞けば3月までの一冬の間、ずっとこのような厚着で暮らしているといえます。私は直感的に脱水がある、おばの症状は脱水症状だと判断しました。この判断は絶対的に的中していると思いました。

早速、家族に話して電気毛布を取り去りました。そしてリンゴ汁で出来るだけ水分を補給してから10—15分したところで、痛い痛いと言っているのを2、3人の手を借りて出来るだけ静かに横にし、2、3枚着ていた寝巻きの寝巻きに着替えて貰いました。脈拍は幾分かほそい感じでしたが、しっかりしていましたのでやや安心しました。

## サナモアを照射

おばは私の奨めで以前からサナモアを愛用していましたので、着せ替える時にそのまま支えて貰って、病人の状態をつぶさに観察しながら光線療法をすることにしました。

カーボンはAカーボンを使い、一台で足裏、足首、膝に照射、他の一台で腰、床ずれ、腹、背を照射してから、次に触るだけで関節を痛がるので上向きに寝て貰い、右左別々に肩、肘、手首を照射しました。この間、特に顔色や動作を注意して見ながら治療をしましたが、少しも嫌がらないで満足そうに、とても気持ちよさそうにしていました。

おばは光線療法を終えてから良く眠ったため一寸心配しましたが、大声で呼び掛けたら頷いたのでほっとしました。その上、目覚めたら蜂蜜を飲み易いようにお湯に溶かして与えたら、ゴクゴクと勢よく飲み干したので。その日は、それ迄と違って床ずれや関節の痛みに伴う苦痛を顔に出さないので、楽になった様子が誰の目にもはっきりと分かりました。それを見て皆も安堵し、やっと少し寛ぐことが出来たのです。

## 危機状態を脱す

翌日、往診に見えた医師は「元氣そうになったおばを見て、『ばあちゃんに皆に会って元氣が出たね。よかったね!』」という注射をして帰られました。私たちは水分の補給に気を配ると共に、昨日の要領で再びサナモアを照射しました。特に足裏、床ずれ、関節には朝夕二回照射しました。それから同様な治療を二日目、三日目と続けて行きました。おばはこの間に段々と元氣を取り戻し、痛みも楽になったようです。食欲も徐々に回復し、玄米の重湯、野菜のスープ、豆乳等を美味しそうに摂るようになりました。

三日目の朝には、おばは目を開けて、側にいる一人一人の手に触って、「すまない、すまない」と声は未だ小さいけどはっきりとお礼を言いました。その瞳には涙が光っていました。誰の目にもおばが危篤状態を脱したことは明らかです。往診に来た医師も、「この分なら遠方の人は帰っても良かるうね。」といわれたので、何人かは午後には帰って行きました。

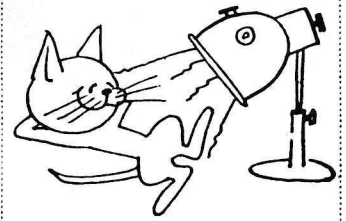
## 回復を見届ける

私はかつておばから受けた大恩の万分の一でも報いたいと思って、光線療法をしながらそれから数日間残り、その間に今後の光線療法の治療法、殊にカーボンの組み合わせや食事について出来る限りの注意をしました。おばは日に日に目に見えて元氣になりました。私はもう大丈夫と言えるとこまで回復した状態を見届けてから帰途につきました。

おばは今年八十七歳になりました。今でも折にふれてはカーボンや希望するものを送っていますが、益々元氣になったと若い者が吃驚しています。毎日自分でサナモアの全身照射をするそうです。サナモア光線治療器を毎日だっこのして暮らしているそうです。

福岡県春日市桜ヶ丘8-13  
Tel 092 (581) 2039  
(応用光線療法は休載します)





## 一治験例報告一

### ☆ネフロローゼ

症例 十八歳 男性  
淡路島に在住する重症

なネフロローゼ患者が、近くの医師から打つ手が無いと言われてしまい困り果てていた時に、知人からサナモアを紹介されたが、連れて来れないため来て欲しいと要望された。しかし余りに遠方であり最初は断つたが、助からなくても良いから是非ともサナモアで治療して欲しいと請われ、熱意に負けて明石から船で淡路まで往診した。

一瞥して大変な患者と思った。顔は浮腫み、腹には水が溜まって腫れており、足はカチカチに膨らんでいた。顔色は蒼白で、尿は極少量しか出ないと言う。えらい処に來たと心配になったが、出来るだけの事を上げて貰えないかと思ひ直し治療を始めた。

今から35年以上昔の冬のことである。  
療法経過 AAカーボンで、足裏20分、腹5分、膝10分、腰10分、背5分、小脳(後頭部)

5分(一号集光器使用)、顔5分(目をつぶり)と、初回でもあり時間はこれくらいにして、神の救いを念じながら照射した。治療を終えて帰り際に、母親にこれから3時間位して尿が少しでも出たら奇蹟と思つて喜んでくださうと話し、明日も治療することを約束した。

翌日はウエノ光線療法に來所した患者を済ませてから出掛け、ため患者宅に着いた時は暗くなっていたが、奥から母親が飛んで来て、「先生、先生が言った通り三時間過ぎたところで尿が少し出ました。」と言ったので正直私も驚いた。それから一週間通つて治療を続けた結果、尿量が増して患者の浮腫みは日に日に改善していった。

私も何時までも行けないのでサナモア治療器を買つて貰ひ、照射法を指導して爾後の治療を行ったが、本当に奇蹟が生まれたのか患者は命拾ひしたのである。  
私の終生忘れられない治験例の一つである。  
ウエノ光線療法  
上野 貞氏報告  
TEL078-333-1358

### 「愛用者」だより

#### ☆オデキ

北海道白老郡 加藤 正  
一昨年よりサナモアを愛用させて頂いております。

子供が熱を出した時、肩凝りの時、切り傷の止血など最大限に利用し、その効果に驚いております。中一になる息子がおりますが、去年まで夏

#### ☆鼻閉に劇的な効果

藤沢市 本多 順子  
三年まえ知人に勧められサナモアを購入しました。以来

止すると悪化するため止められなくなる)な症例に光線療法を併用したところ、離脱することになった例があります。これら一連の治験例から、ネフロローゼの治療に光線療法を併用する利点は明らかです。

### ☆高血圧症・円形脱毛症

症例 七十三歳 男性

色々な治療に利用してきましたが、劇的に効果がありましたのは、20年ぐらいいま前から苦しかった鼻閉がすっかり無くなったことです。たいして期待もしていなかったものですからすっかりサナモア党になりました。

主人は医者ですが、座骨神経痛で苦しんだ時痛みが楽になり大いに助かりました。これからも一生懸命に利用し、私の高血圧や肩凝りも治したいと思っております。

### サナモアカーボンの類似品にご注意下さい

サナモアA、B、C、Dカーボンは、その使用法を書いた著書「光線療法学」ともども愛用者各位の御信頼を頂き、全国津々浦々まで高い評価を受けておりますことは、皆様方よくご存知の通りであります。  
ところが他社製カーボンに「光線療法学」をセットしたり、サナモアA、B、C、Dと効果と同じという根拠もないような文句で互換表を添付して販売している業者がいます。もとより、このような道理にもとる行為をする者が何時の世にもいますが、当研究所としては他社製カーボンを使用した場合の効果について一切の責任はもてませんので、ご注意下さい。  
(サナモアカーボンには、製造元イビデン株式会社の商標「B」のマークが必ずついています。)

東京光線療法研究所

症例 患者は高血圧症の治療を希望して來院したが、円形脱毛症に罹患していたので一緒に光線療法を行った。

療法経過 カーボンは脱毛部(頭部)にはACカーボンを組み合わせて使い、他の部位にはAカーボンを用いた。照射部位ならびに照射時間は、脱毛部30分、顔5分、腹10分、腰10分、膝5分、足裏10分、後頭部5分とした。

患者には毎日通院して貰つて治療したところ血圧は安定し、体調はすこぶる良好となった。また脱毛部は、三カ月目頃から白い産毛(うぶげ)が生えたり抜けたり五回ぐらいい繰り返したが、五カ月目頃から黒い髪の毛が生え始め、六カ月目には生えそろうた。

以来サナモアを健康管理に愛用している。

川崎市 東京光線療法院  
海渡一二三氏報告  
TEL044-721-5067



## (1) 古代の黄金時代

太陽は人類の歴史が始まって以来、全能のシンボルとして崇拝されてきました。未だ人知の開けていなかった古代社会に於いて、太陽は幸福の象徴であり、畏敬の対象であり、尊厳の的でした。

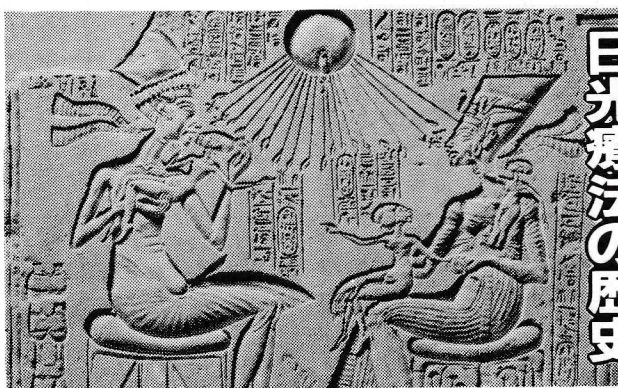
当時の人々は、太陽光線には健康に役立つ保健効果ならびに病気に對する治療効果があると信じていました。勿論、今日のように科学に基礎を置いたものではありませんが、医療面で積極的に利用した事実が、文献や遺跡から確かめられています。理論以前に実際の効果を重んじたためでしょう。

古代ギリシャでは、三〇〇年以上前に太陽光線を治療の光源として利用して日光療法を行った記録が残されています。古代ギリシャ人は日光浴場で全裸になり、全身の日光浴を好んで行いました。紀元前一〇〇〇年頃、ゼウスの子アポロが太陽神として崇められ、その息子エスキュラピウスは最も有名

な医師として知られていました。

エジプト人は紀元前二〇〇〇年頃の第五王朝時代、太陽神ラーを信仰し、国王を始め盛んに日光浴や日光療法を行ったことが古代遺跡

## 日光療法の歴史



から明らかになされています。紀元前一三五〇年頃の第十八王朝のアメノフィス四世（ツタンカーメン王の父）は、唯一神アトン（太陽の円盤の意）を信仰し、名をアクナトンと改めました。王妃ネフェル・チチと三人の娘と一緒に日光浴を楽しんでいる彫刻板が発掘されています。現在この彫刻板は、ベルリンのエジプト博物館に展示されています。

(写真)

インドの聖典ベダには、既

に紀元前一四〇〇年頃、日光（紫外線）に対する感受性を高めるソラーレン（植物に含まれている光感作物質）を使って白

## 古代の黄金時代から近代の復興

医学博士

宇都宮 光明

斑の治療を行ったことが記述されています。この治療法は近年になってアメリカのフィッツパトリック等によって漸く再評価され、今ではPUVA（プバ）療法（PはPsolaren ソラーレ

N: UV AはUltra-violet A 長波紫外線の略）の名で、尋常性白斑、尋常性乾癬を始め治療に抵抗する皮膚疾患の治療に使われておりますが、振り返って古代医療の水準の高さに驚愕の念を禁じ得ません。

ペルシャでは、紀元前六世紀頃までに太陽と火を崇拝するゾロアスター教が全土に広がりました。日曜日をSunday、即ち太陽(sun)の日と言うのは、ゾロアスター教に源を求めることが出来ます。

古代ローマでは、紀元前二、三世紀頃には浴場には必ず日光浴室を設け、各家庭にもソラーウムと呼ぶ日光浴室がありました。当時の博物学者ブリニは「太陽は最良の薬である。Sol maximum remedium est」と説き、ナポリ地方には「太陽の来ない家には医者が来る。Dove non va il sole, va il medico」と言ふ諺がありました。

古代は、すべての人々が素直に太陽光線の恩恵を信じ礼讃した黄金時代です。この人々の考えを背景に、太陽光線を利用し

た日光浴や日光療法は人類最古の治療法の一つとして用いられたのです。アレキサンダー大王が樽の中に住んでいた哲学者ダイオゼネス（紀元前四世紀頃）に「何か望むものはないか」と問うたのに対し、「そこをどいて日光浴の邪魔をしないで下さい」と答えたと言う有名な逸話に、当時の有様が目に浮かびます。

## (2) 日光療法の揺籃期

現代医学の祖とされる医聖ヒポクラテス（紀元前四六〇年生）はギリシャのコス島に健康大寺院を建立し、日光療法を本格的に医療の場に取り入れて意欲的にその効果について検討して、次のごとく述べています。

「日光の光と熱は、すべての創傷、殊に開放性骨折、破傷風等に効果がある。筋肉の強壯を期する人には日光浴が絶対に必要である。而も春夏秋冬必ずその直射を受けねばならない。脂肪性の肥満した人は、出来るだ

(六ページにつづく)



(五ページからつづく)

け裸で歩き回るのがよい。但し夏期には虚弱な人は過度にならないように注意し、主として背部を曝し、頭部は必ず何かで覆わねばならない。」

西暦紀元一五〇年頃の外科医アンチロスは、「如何なる患者も成るべく日光に当たるようにすべきである。傷は新しい古いに関わらず日光に曝すが良い。また動ける患者はもとより、寝たきりか座ることしか出来ない患者も、布団や毛布の上に寝かせたり砂上に横たえたりして、出来るだけ日光に当てなければならぬ。」

患者に日光浴をさせれば、内臓の分泌作用が高まり、発汗を増し、筋肉を強くし、脂肪の蓄積を防ぎ、腫瘍を縮小し、浮腫を減づる。また呼吸は深く活発になるから胸部が狭い人は拡大し、肺臓を強くして肺の病気には好結果が得られる。

実際に日光浴をさせる際に注意することは、便通をよくして腸を空虚にし、頭を覆うことである。」と述べていますが、そ

の慧眼は光線的作用を正的確に捉えています。

### (3) 中世の暗黒時代

中世はあらゆる分野で科学が衰退した時代です。キリスト教が広まるに連れて病気の治療は専ら薄暗い教会や寺院の中で行われ、日光療法や太陽崇拜は異教徒の行為として排斥され、日光浴すら罪悪視されました。しかしアラビアの王室付医師アビセンナ(西暦紀元一〇〇〇年頃)のように病気の予防に日光浴が有効なことを説いた勇氣のある人もいました。

### (4) 近世の復興

十四世紀に入り古代文化の復興と人間性の解放を唱えたルネッサンス「文芸復興」が起こり、その動きに呼応して太陽光線も見直される兆しが出てきました。中でも殊に興味深いのは、西暦一三七七年にヨーロッパ全土を席卷したペストの大流行の際に、未だ細菌も紫外線の殺菌効果も知らない人々が、悪疫の蔓延を

防ぐ目的で日光消毒を行ったことです。

近代の日光療法の先駆けとなったのは、18世紀中頃に日光療養所を開設した医師でないオーストリアのアーノルド・リックリーやフランスのボンネーとされています。その後、18世紀後半から19世紀にかけて、いよいよ日光療法は近代的な発達を遂げます。ペルトランは一七九九年に、日光療法の適応症として「くる病、リウマチ、麻痺、腫脹、水腫、筋力低下など」をあげました。また一八一六年には、ドオレイナイが日光の作用を熱線(赤外線)と各色線(可視線)とに区別して説明しています。それからエーベルマイヤー、ヒルシュ、ハインリッヒなどによって確たる治療効果が着実に積み重ねられたのです。

そして一八七七年に、イギリスのダウンスとブランドが太陽光線の殺菌作用を発見し、次いでストウレーベルが殺菌効果は紫外線の作用であることを明らかにしたことが契機となって、日光療法は飛躍的な発展を遂げるに至ったのです。



サナモア光線協会

趣意書

天地創造の昔から、真の光、即ち太陽光線は、私たちに限らない恩恵を与えています。サナモア光線療法は、この太陽光線の健康増進、疾病予防および治療効果を利用した治療法です。従つて、目に見える可視光線だけでなく、目には見えないが無くてはならない紫外線や赤外線を目的に応じて適切に放射しなければなりません。

このサナモア愛用者を以て、光線療法の研究を行うと共に、啓蒙普及活動を行うためサナモア光線協会を設立しました。サナモア光線協会は、設立の趣旨に賛同戴いた会員にて構成し、季刊紙「健康と光線」を発行します。

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

協会では、会員を募集しております。入会希望者は、左記宛御申込み下さい。

〒153 東京都目黒区目黒4-6-18  
サナモア光線協会 TEL(03)七九三-五二八二  
(七二一-五三三二)

(本紙の無断転用を禁止します。)